

令和6年度 日本小学生バレーボール連盟

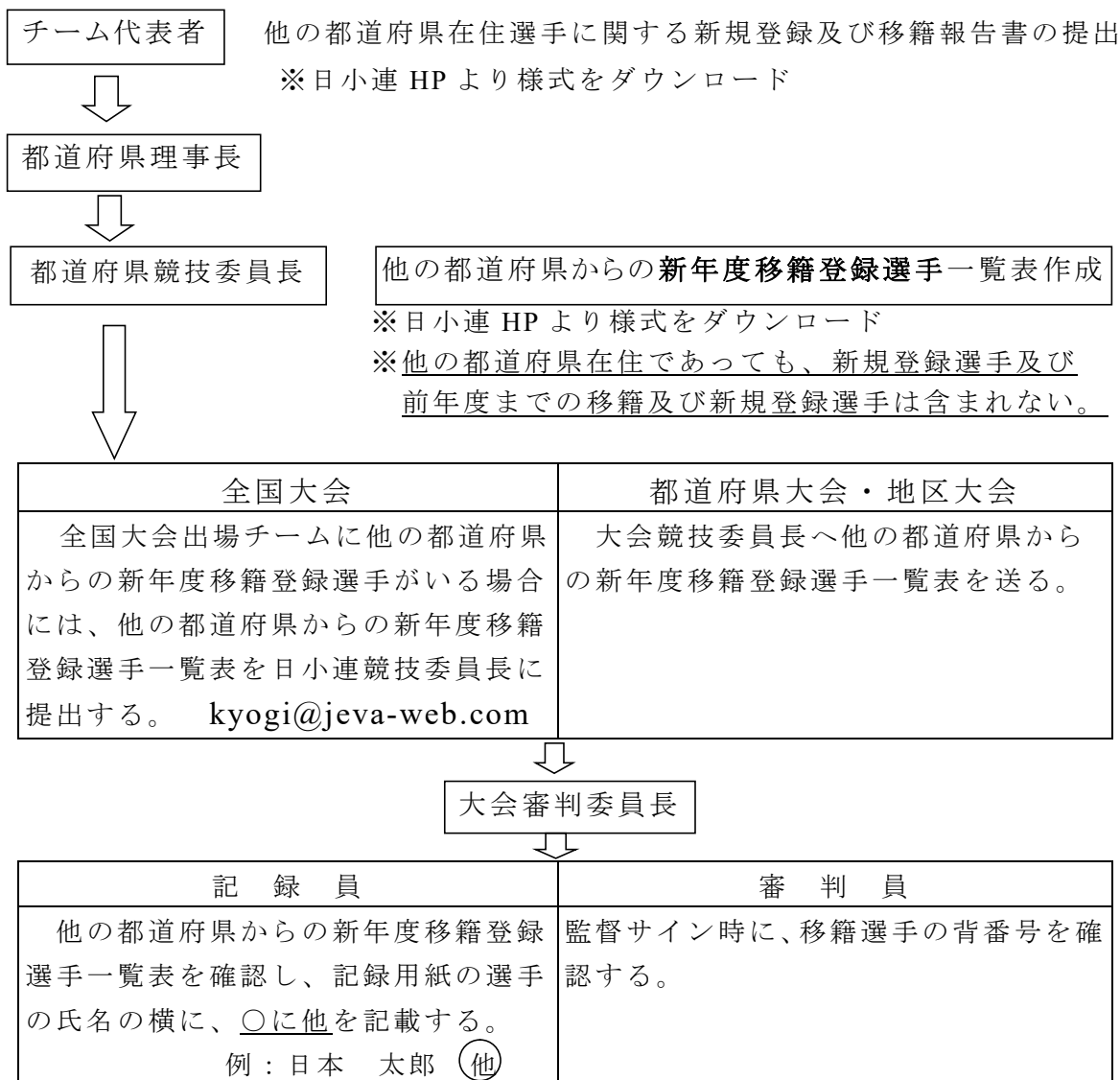
審判委員会 活動方針

1. 審判員一人ひとりがコンプライアンスへの意識向上を図り、安全で安心なバレーボール環境の構築に努める。暴言・暴力・差別の未然防止に取り組む。
2. 6人制競技規則を熟知し、小学生競技規則への理解を図り、正しいルールへの取り扱いと安定した判定基準づくりに取り組む。
3. 指導者を対象にルールやその取り扱いについての周知・徹底を図り、ルール遵守の精神を醸成する。また、選手には、ラインジャッジ等の活動を通して、ルールへの関心を育み、フェアプレーの啓発に繋げていく。
4. 協会との連携を図りながら審判資格取得に向けた取り組みを計画的・継続的に推進し、若手審判員の育成に努める。併せて、子育て世代や次世代レフェリーが活躍できる環境の整備に努める。
5. グリーンカードを継続的に活用し、フェアプレーの推進に努める。
6. Thank you プレーヤー ・ Thank you スタッフ ・ Thank you フェアプレー

他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について

日本小学生バレーボール連盟

全日本バレーボール小学生大会における、他の都道府県からの新年度移籍登録選手の確認方法を以下の通りとしましたので、運用をよろしく申し上げます。なお、新年度とは3月のJVA-MRS登録が始まる日からを指し、前年度とは、2月のJVA-MRS登録が締め切られる日までを指す。



※記録用紙のスターティングプレイヤー番号、選手交代番号の記載欄にレ印を付けて確認してもよい。

〈参考〉

大会要項 チーム編成

他都道府県在住であって、新年度の登録の際に移籍登録した選手はベンチには3分の1以内とする。また、コート上には2名以内とする。監督は試合時に、他都道府県からの移籍登録選手の番号を審判員と確認しておくこと。

日本小学生バレーボール連盟
令和6年度全国競技・審判委員長合同研修会資料

○小学生バレーボール大会における競技取り扱いについての共通理解

1. 他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認について

資料「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」

資料「他の都道府県在住の新年度移籍登録選手一覧表」

2. ユニフォームについて

①ユニフォーム規程

選手番号についてはルールブック・競技要項の両方に記載されている。

都道府県名の大きさと位置 チームネームより小さい（高さ） 袖か襟下

②混合の男女判別

ソックスの色や長さ → ソックスの色（長さだけでは判別しにくい）

ハチマキ → ×（ゲーム中にとれたり、はずしたりすることがある）

※審判委員が一目で判別できることが大前提

③ウエア等公認制度について

④ベンチスタッフの服装

シャツのイン・アウトについてはノーコントロール 選手はインを基本

3. ベンチへの持ち込み物について

①飲料水の水筒→ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式の
ボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば
問題ない。ベンチスタッフも同様

②キャンプカート→安全面、屋外の汚れを入れない観点から**使用禁止**

キャンプカートは、ボールケースと同じ扱い

③スマートウォッチ→時計としての使用は認める。（通信機器やカメラとしての**使用禁止**）

4. テクニカルタイムアウトについて

選手の健康管理を考慮し、以下の通りに適用する。

①テクニカルタイムアウトを2回適用する場合の取り扱い

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、**チェンジコート後に適用する**。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

②通常のテクニカルタイムアウト1回でデュースが続く場合の取り扱い

第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は上記と同様とする。

5. 試合前後のあいさつについて→**コロナ禍前に戻す**

選手 ネットをはさんで握手

監督 試合後は審判員と握手

6. 試合間のチームの入れ替えについて

資料「審判委員とコート委員の連携と役割分担」

7. 試合中の応援団のマナー違反への対応

①フラッシュ撮影や応援方法に問題があった場合

コート委員が応援団に指導し止める。競技責任者に報告する。

②判定に対するクレームや相手チームへの暴言・威嚇等があった場合

どちらのチームの応援なのか、コート委員が監督に確認する。コート委員は本部に連絡する。レフェリーが気づいた場合は、セカンドレフェリーが監督に確認し、コート委員に伝える。

8. 試合中、選手が怪我をした場合の対応

審判員はゲームを止める。セカンドレフェリーは選手の状態を確認し、監督に報告する。判断は監督に委ねる。監督の対応によっては、コート委員は救護員を呼ぶ。その時に、救護員に選手の状態を伝える。怪我の処置はベンチ後方など、危なくない場所で行う。審判は試合を再開させる。

9. 試合中、災害が発生した場合の対応

ゲームを中断し、子どもたちの命を守る行動を最優先する

大会実行委員会が作成する大会危機管理マニュアル（大会役員用）に則り対応する

※セカンドレフェリーは、中断時刻をスコアシートに記入しておく。

10. 2024年6人制ルールの取り扱い

タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

上記については、小学生も同じ取り扱いとする。これは正規の試合中断（作戦上）のタイムアウトの取り扱いである。位置の制限はない。「タイムアウトでは自チームベンチ近くのフリーゾーンに出る」（ルールブック記載）

テクニカルタイムアウトについては選手の健康と安全に配慮したタイムアウトであることから、選手は30秒間コート外に出て、給水又は休息する。モップかけは、選手（子ども）は行わない。

タイムアウトのモップ掛けについて

モップは用意する。基本は選手の用意したタオルで拭く。モップの使用はチームに任せるが、レフェリーが濡れた箇所を見つけた場合は、チームにモップを掛けるように伝える。

審判委員と競技(コート)委員の役割・連携について

時 間	チー ム	審判員	コート委員
1	準備・待機	・スコアシートの準備。 ・ネットの高さや張り具合、アンテナの位置などチェックする。	コートチェックと用具の確認をする ・試合球 ・ボール拭き ・ボールスタンド ・フラッグ ・カード ・ブザー ・得点板 ・チーム名盤 ・ネット ・白帯 ・アンテナ ・ラインテープ
2	第1試合プロトコール 開始5分前	競技エリアの外で待機する。審判員とともにコートに入り、練習を開始する。ネットは使用しない。	審判員に、コート入場OKの合図を送る。チームの持ち込み備品等の確認。プロトコールまでにラインジャッジが来ない場合は、放送での呼び出しを依頼する。
3	プロトコール	トスをし、監督とキャプテンはサインをする。ユニフォームで公式練習に入る。ラインナップシートを提出する。	ユニフォームやチームの持ち込み備品確認
4	試合中	ゲームコントロール	コートサイドで待機する。 コート、用具の不具合を発見した場合や審判員の呼び出しに対応する。
5	第1試合終了	○試合終了のチーム監督と審判は握手する。 キャプテンのサイン後は、速やかにベンチから退出する。※ラインジャッジや得点などの割り当て準備をする。	キャプテンのサイン後は、チームは速やかに競技エリア外に出るよう促す。 コート、用具の確認、及びチーム名盤の入れ替えをする。 フラッグを回収し、消毒をする。
6	第2試合プロトコール 開始5分前	○次試合のチーム監督と審判は握手する。 ○次試合のチームを競技エリアの外で待機させる	審判員に、コート入場OKの合図を送る。担当審判員と当該チームにプロトコール開始時刻を連絡する。

以降 3～6のくり返しで進める。

6の時間について

※連続試合となる場合には、試合間を15分空けることができる。

※プロトコールの設定時刻は5分単位で行う。例：前の試合が10:12終了の場合、10:20もしくは10:25からプロトコールに入る。

最終判定について

1. ラリー終了のホイッスルをしたときは、自らの判定を頭に置いて、セカンドレフェリー、ラインジャッジを確認し、責任を持って(説明できるように)最終判定を行う。
2. ファーストレフェリー・セカンドレフェリーは、確実に確認できた反則のみをホイッスルする。
3. どちらのレフェリーのホイッスルが先に鳴ったのかは、判定するにあたって重要である。
4. セカンドレフェリーはファーストレフェリーの見えないところを補佐する。
5. ファーストレフェリーは、最終判定を出した後に、チーム又はセカンドレフェリーからのアピールで判定が変わったり、ノーカントにしたりすることがあってはならない。また、最終判定を出した後にレフェリーやラインジャッジを呼び、確認することはない。

ハンドリング基準について

1. バレーボールのハンドリング基準は同じであることを頭に置いて、大会の基準が同じになるように審判員が認識を合わせることが大切である。
2. 疑わしきはホイッスルしない。
3. 安定した基準を目指す。
4. 誰が見ても、どこから見ても、反則のプレーは確実にホイッスルできるハンドリング基準の確立が必要。

サービス許可の吹笛のタイミング

1. ラリー終了から次のサービス許可の吹笛までの間に、確認すべきことをルーティン化する。
2. 得点が正しく表示されているかを確認する。
3. サービス許可の条件は、両チームの選手がプレーをする準備ができ、正しいサーバーがボールを保持していることである。(小学生連盟では、間違ったサーバーは打たさない)
4. 両チームの監督から中断の要求がないことを確認し、サービス許可のホイッスルをする。

ラインアップシートによるサービス順の確認

1. セカンドレフェリーはラインアップシートで、スコアラーはスコアシートで個別に確認を行う。
2. セカンドレフェリーは、ラインアップシートと並んでいる選手の順番が違う場合は、ゲームキャプテンに間違いを伝え、ラインアップシートの順で並ばせる。
3. セカンドレフェリーは、ラインアップシートの番号と並んでいる選手の番号が違う場合は、監督にラインアップとコート中の選手が違うことを伝え、監督の対応に応じて処置をする。

競技確認事項(小学生の取り扱い申し合わせ事項)

1. ハチマキは、ユニフォームではない。ヘアバンドと同じ扱いになる。
2. インターバル中のフリーゾーンでのボール使用は、小学生は大人が入ってもよい。但し、ウォーミングアップ程度のボール出しとする。サイドライン側フリーゾーンが狭いなど、会場の状況によっては、使用場所はエンドライン後方のみとする。(コロナ前の全国大会で取り扱った事例である。今回、小学生の申し合わせとする)
3. ベンチ横のフロアーに選手の水筒のみを並べる場合は、ベンチの下又はベンチの後ろに置く。ペットボトル等の使用は、体育館の使用規定を確認すること。

小学生の取り扱いについて(基本的な考え方)

1. 選手(小学生)への教育的指導は、ルールへの理解が十分にできていない小学生に、最初に行う指導である。教育的指導を受けた後は、罰則段階表通りとなる。
2. グリーンカードは、フェアプレーの精神を醸成するために活用する。本来であれば、試合中だけでなく・大会全般において全ての役員が常備し、使用することができる。選手に対する教育的側面からフェアプレーやマナー(他者への思いやり)・頑張りを褒めるためにレフェリーが使用している。
3. レフェリーは、スクリーン行為を行っていると認識した場合、ファーストレフェリーはサービスのホイッスルの前にそのチームのゲームキャプテンを呼び指導をする。(セカンドレフェリーは、指導内容を監督に伝える) 指導後に反則行為が確認された場合は、スクリーンの反則となる。(申し合わせに変更なし)

小学生を指導するにあたっては、小学生が人格形成期であることや発達段階における心身への考慮は必要です。小学生バレーボール連盟は、「正しく・楽しく」を基本に「子どもたちをど真ん中に」を掲げて活動しています。子どもたちのなぜ?何がいけなかったの?が納得に繋がるように、レフェリーは、わかりやすい言葉で端的に説明する必要があります。

2023年度 全国6人制講習会

2024年度（令和6年度） に向けた 審判技術のポイント

JVA審判規則委員会
指導部

6人制の重点指導項目（ファーストレフェリー）

（1）ハンドリング基準について

取扱い P11

実マ P18

・基準および判定の仕方についての確認を行い、すべてのレフェリーが**統一**ができるようにする。

- 誰がどこから見ても反則のプレーは確実に
タイミング良くホイッスルする
- それぞれの反則となるプレーを確認する
- 他のレフェリーと基準を比べ精度を上げる

（2）不法な行為について

取扱い P12

実マ P4～5

・不法な行為に対しては、**毅然とした態度**で。
・最終判定後、**セカンドレフェリーと協働**し、
コート状況を**確認**する。
・**繰り返すことがないように**早い段階でステージ1

- ラリー後のコートの見方の工夫
- セカンドレフェリーとの協働
- 早い段階での対処

（3）ネット際の判定について

実マ P15～17

・選手がネット上でボールをプレーするときに
正確な判定ができていないケースがある
タッチネット？ オーバーネット？
同時接触のプレー？ インターフェア？

- 起るであろうプレーの予測
- 正確な判定のためのポジショニング
- タイミングのいいホイッスル

ネット際のプレー

- オーバーネット
 - ・ ブロッカー or セッター
- ブロッカーとセッターが同時に触れた
- ・ インタフエアー or バックプレーヤー
- タッチネット

何かか起きることを予測
判定の引き出しを作る指導も！

ラストタッチ 最後に触れたのは誰？

- 同時接触なのか時差があるかと判断するか
 - ・ 同時接触なら、ボールを出した方の負け
- 時差があると判断するならばボールに最後に触れたのは誰？
 - ・ 自分の眼で確認できた状況で判断する

手とボールの接触をしっかりと確認する

6人制の重点指導項目（セカンドレフェリー）

（1）不法な行為について

及びベンチコントロール

取扱い P12

実マ P4～5

- ・ 最終判定後、特にネット際やベンチ等で**ファーストレフェリーが気づかない**不法な行為を伝える

- ラリー後のコートの見方の工夫
- ファーストレフェリーとの協働
- セカンドレフェリーしか気づかない事

（2）ネット際の判定について

実マ P15～17

- ・ 選手がネット際でボールをプレーする動作中、**ボールを追わずに**ネット際に目を残して判定する
- ・ ペネトレーションの判定

- ファーストレフェリーとセカンドレフェリーの見るタイミングの分業
- セカンド側のアンテナへのタッチネット
- 責任持ってタイムリーなホイッスル

タッチネット

●見落とされるケース・反対のケースが

増えている

- ・プレーヤーがネットから離れるまで目が残っているか？
- ・起こるであろうケースをイメージできているか？
- ・ファーストとセカンドの協働は？

着地し次のプレーに行くまで目を離さない

(4) スコアラーとの連携について

実マ 各ページ

・スコアシートの**最終確認の徹底**

〈特に試合中〉

- ・スコアラーとの**連携とコントロール**
- ・不測の事態が起こった際の**手順の確認**

- スコアシートを読める力の獲得
- 試合で起こるケースの状況把握

スコアラーとの連携

- 中断に関する処置
 - ・選手交代
 - ・警告等の対応
 - ・不当な要求で拒否されたときの手続き
- サーバーの誤りの際の手続き
- スコアシートのミスへの気づき

セカンドレフェリーのスコアシートへの理解

6人制の重点指導項目 (S・AS)

- ・ **サーバーや得点の確認を、毎回確実に！**
- ・ 正確なスコアシート
- ・ **疑わしいとき**には、試合を止める
- ・ アシスタントスコアラーとの連携

責務内容を再度確認し、着実をこなす
正しくない交代・リプレイスメントの手続き

実マ 各ページ (3) 手順P24~25

2024年度 6人制ルールの取り扱い

9.2 ヒットの特性

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。

- ・クリアにヒットされなければならない。
- ・反則：ボールをつかむ、投げる、方向を変える、持ち上げる
- ・オーバーハンドパスでのキャッチの反則
手の中に止まる・長くとどまるケース

実マ P18

14

ハンドリングの統一

●キャッチの基準の再確認

- ・特に中学生・高校生女子のトスプレーについて

基準はどのカテゴリーも同じ

●試合を通しての基準の統一

- ・基準 見方 位置取り

ボールと手の接点を正確に見る方法を確立

12.3 サービスの許可

- ▶ コート上い5人・7人の場合
- ▶ ポジション4にリベロが拳がった場合

サービスのホイッスル前にチームに促す

- ▶ 気づかずホイッスルした場合
- ▶ ラリーが始まった場合

気づいた時点で、直ちに罰則なしでやり直す

実マ P8

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.2 フェアプレー

- ▶ 判定に対する質問と抗議や意見の違い
- ▶ 繰り返さないためのステージ1
- ▶ 該当するケースの基準
- ▶ 監督の許される範囲

自らの判定のミスと、チームの行為を分けて考えて、毅然とした態度で処置

実マ P4~5

不法な行為への対応

●ゲームコントロールの第1歩

- ・軽度な不法行為の段階でステージ1
 - ・繰り返すことがないための手立て
 - ・自身の判定ミスとは別の意識を
- ### ●レフェリーの協働がカギ！
- ・最終判定後のレフェリーの協働
 - ・ネット際やベンチでの行為の確認

セカンドレフェリーの役割の重要性

実マ P20

各セット開始前、正しく記入されたラインアップシートにサインをして、セカンドレフェリーまたはスコアラーターに提出する。

- セット間は、前のセット終了から次のセット開始までが3分

- ・前セット終了2分30秒でホイッスル
- ・スターティングメンバーをコートに
- ・セカンドレフェリーが積極的に要求する

- ・チームの要求のよるすべてのタイムアウトは30秒間である
- ・タイムアウトの間、選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならぬ

- **タイムアウト時はコートから離れる。**
- **選手は30秒を待たずにコートに戻る**

**レフェリーのコントロールは不要
30秒の終了はホイッスルで！**

実マ P20

最終判定

- **最終判定は、ファーストレフェリーが責任を持って行う**

- ・必要な担当を確認できているか

- **判定後、ラインジャッジを呼んで確認しない**
 - ・確認する必要があるれば、判定の前！
 - ・特に、ブロックタッチやパンケーキ

呼んだ時、ディスカッションをしない

JVA コンプライアンス規程 No.1

(JVAホームページより 一部抜粋)

第1章 総則

(目的) 第1条

本規程は、公益財団法人日本バレーボール協会(以下「JVA」という。)におけるコンプライアンスに関する意識の向上を図るとともに、コンプライアンスを円滑かつ効果的に実施するための基本方針、組織体制及び運営方法を定める。

(定義) 第2条

本規程における用語の定義は次のとおりとする。

- (1) 「法令等」とは、日本国法令、JVAの定款、JVA諸規程類及び当該加盟団体定款、規約、規程類、それらに付随する諸規則並びに社会規範、倫理規範等をいう。
- (2) 「コンプライアンス」とは、法令等の遵守をいう。

JVA コンプライアンス規程 No.2

(JVAホームページより 一部抜粋)

(基本方針) 第3条

JVAはわが国におけるバレーボール界を統括し代表する団体としてコンプライアンスを最優先の重要課題の一つとして認識し、バレーボール及びビーチバレーボールの普及・振興を図り、業務推進及び競技運営に当たるとする。

第2章 義務

(行動規範) 第5条

JVA関係者は、第3条の基本方針を踏まえ、法令等を誠実に遵守するだけでなく、自ら或いは自らが関係する団体の利益となるような言動・行動・活動を慎み、スポーツパーソン、スポーツ関係者として品位と名誉を重んじつつ、フェアプレーの精神に基づいて他の範となるよう行動し、バレーボール及びビーチバレーボールの健全な普及・発展に努めなければならない。

JVA コンプライアンス規程 No.3

(JVAホームページより 一部抜粋)

(禁止事項) 第6条

JVA関係者は、次に掲げる行為(以下「法令等違反行為」という。)を行ってはならない。

- (1) 自ら法令等に違反する行為
- (2) 他のJVA関係者に対して、法令等に違反する行為を指示・教唆する行為
- (3) 他のJVA関係者の法令等に違反する行為を黙認する行為
- (4) 上記(1)～(3)の管理監督を怠る行為

JVA コンプライアンス規程 No.4

(JVAホームページより 一部抜粋)

2 法令等違反行為の例として以下の行為がある。

- (1) 暴力行為、いじめ、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントをはじめとするあらゆるハラスメント、差別、暴言等、その他人権尊重の精神に反する言動
- (5) 試合の勝敗において、あらかじめ取り決めを行うこと
- (13) 本人の同意なく、個人情報を目的外に使用し、また第三者に開示する行為、並びにJVAIにおいて機密とされる情報をJVAの許可なく開示、漏洩及び使用する行為
- (16) その他、著しくスポーツパーソン、スポーツ関係者として品位、名誉に欠ける行為